

国際ロータリー第2570地区

# 行田ロータリークラブ

RI会長：カール・ヴィルヘルム・ステンハマー / ガバナー：野中 弘之

会長：内山俊夫 / 幹事：山本憲作

例会日：木曜日

午後12時30分開会

会 場：アドバンテスト

行田クラブハウス

クラブ会報委員会

委員長：境野登章 / 副委員長：廣川和夫

委 員：島田修、鈴木貴大、田中敏男

石渡健司、小菅克祥、廣世雅昭

2005～06 国際ロータリーのテーマ

「超我の奉仕」



SERVICE Above Self

第1939回 例 会 (9月22日)

## 会長挨拶 内山俊夫 会長



皆さんこんにちは。

各地で運動会等が開催され、季節は秋へと深まっております。

9月3日、第2570地区ロータリー財団セミナーが開催されました。当クラブの中島財団委員長さんと参加してまいりました。国際ロータリーの中で財団の役割は高く評価されており、財団奨学生は3700人に4億5千万ドルが、そして地球上からポリオ撲滅にむけて5億4千万ドル、20億人へのポリオワクチンの投与が行われた。このような活動に各国のロータリアンの貴重な寄付が使われております。

また、ロータリー財団の財務に付きましても説明があり、財務内容は三ツ星クラスであり、一般販管費の割合は、ロータリー財団と類似のキワニス並びにライオンズ財団と比べて最も低く優良な運営がされているとの報告がされました。

皆様からのロータリー財団への寄付金は、①年次寄付<財団のプログラムに使用>、②恒久寄付<財団の将来を安定させる為の基金>、③用途指定寄付<寄付者が目的を限定>に分けられます。

①年次寄付に1000ドル以上すると、ポールハリスフェロー、又、再度1000ドル以上寄付しますとマルチプルポールハリスフェロー、そして寄付金総額が10000ドル以上を越えすと大口寄付者としての称号が与えられます。また毎年現金寄付100ドル以上をする人を財団の友とよびます。

②恒久寄付に1000ドル以上される方に、ベネファ

クターという認証が与えられます。

2570地区では年次寄付のうちより120名近い国際奨学生を派遣し、学生一人当たりの費用は26,000ドルがロータリー財団より支出されておるとのことです。

最後に国際派遣学生の紹介、そして財団学友からの帰国報告がありました。身近に学友の話を聞きますと、ロータリアンの寄付が日本の将来、そして世界平和のために大きく役に立っている事を強く感じました。

本日は1996年の国際奨学生であり、現在は埼玉大学助教授、及川賢さんの卓話をお願いしましたところ、お引き受けいただき誠にありがとうございます。

私たちが及川さんとの関わりのきっかけとなりましたのは、ロータリーの財団の活動でありました。

皆様からの本年度の寄付のお願いをこれから致してまいります。その際は宜しくご理解のうえご協力をおねがいします。

次に、9月16日には白河RCへ訪問し、姉妹クラブ協定自動延長覚書が、富永PG、高橋福八PG、小池英輔PGの立会いのもと無事締結いたしましたことを報告いたします。

その後、白河提灯祭りを見学いたしました。特に、350年の歴史のある本殿における祭礼の見学、そして、クライマックスは本殿に上がり神社神輿の棒いれを見学し、月夜に照らされ高々と秋の空にあがる提灯を感動の中で見てまいりました。

また、9月20日に白河RCの例会に交換卓話のため山本憲作幹事、境野会員の3名で訪問してまいりました。例会終了後、阿部会長、佐藤憲一会員さんと共に鹿島神社の宮司様、提灯祭りの大総代、副総代さま宅に十万石饅頭を持参してのお礼を致してまいりました。

白河提灯祭りの歴史の中で一般の人が本殿にあがることはありえず、今回の行田RCがあがれるかどうか、白河RCのメンバー間で無理ではないかと、実現するまでは多くのほとんどの方が、信じておられなかった、その様な中で本殿にて棒入れを見学できたことは、白河RCの皆様の地域における個人的な信用と、地域社会に対する貢献があればこそとあらためて痛切に感じ入ると共に、姉妹クラブ行田RCに対する白河RCの皆様の思いを深く感謝いたしました次第

(次頁へつづく)

です。状況が分からずに本殿にあがり、失礼がありましたこととお詫びいたしてまいりました事を報告いたします。

財団の奨学生に対する支援と共に、青少年交換プロジェクトには派遣する事と、外国からの学生の受け入れが必要であります。学生を受け入れますと、受け入れの学校が必要であります。

先般、第5グループの会長幹事会におきまして、熊谷における高校の受け入れが現在出来なくなっているとの話もありましたが、将来の青少年の育成とロータリー活動の関係におきましては、青少年交換は非常に意義あるプログラムと私は考えます。

その様な意味から今後、進修館高校とのインターアクトクラブの設立を目指し、青少年交換実施に向けて江袋インターアクト委員長と行動してまいります。

以上会長報告と致します。

## 幹事報告 山本憲作 幹事



皆様こんにちは。

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、本当に昔の人はうまく言ったなと思うわけですが、彼岸が来ましたらようやく秋らしく季節が変わってまいりました。皆様には体調を十分整えて、ぜひ健康で邁進して頂きたいと思っております。

過日、皆様に募金箱を後ろの席に置いてご協力をお願いしました、カムリーバンク募金の締め切りが9月20日でした。皆様の多大なるご協力を頂きまして、1万5千円集まりました。9月20日付けで指定の口座に振込みをいたしました。

続いて、妻沼ロータリークラブから依頼が来ております。熊谷市との合併に関しまして、新熊谷市誕生記念コンサート、相曽賢一朗さんのヴァイオリンコンサートがございます。このチケットが1枚1,500円で10枚程度協力して頂けないかとの依頼が来ておりますので、ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。パンフレットは例会場で回しますので、それをお読みいただき宜しく願いいたします。

それと9月16日は白河へ行って大歓迎されてまいりました。本当に厳かな儀式を見て心が洗われる思いがしました。

そして、9月20日は会長卓話ということで白河の方へ行って参りました。また夜はさくらロータリークラブを訪問してまいりました。

今後の話ですが、9月29日に富士見鮎さんで夜間例会でございます。これは儲かる証券投資についての話とのことをご了解いただきたいと思います。

もう一つですが、忍郷友会が今年100周年を迎えるということで10月22日、イベントが行われるわけですが、そのポスターが後ろにございますので、皆さん是非お持ちいただいて貼って頂きたいと思っております。

忍郷友会の行田支部長は渡辺栄一さんでございます。渡辺さんを中心に活動しております。今回の講師には徳川宗家18代当主がお見えいただいて、ご講演いただけます。また写真家の小川一真さんについて岡塚さんの講演がございますので、是非御参加もよろしくお願いいたします。

以上でございます。本日講師をお勤めいただく及川さんには本当に有難うございます。これをもって幹事報告とさせていただきます。

## 卓話

### 講師紹介 小山博 読書推進委員長



及川賢君をご紹介します。1966年9月30日生まれという事で、現在38歳でございます。

行田市立太田東小学校から太田中学校、不動岡高等学校と進み、1958年に東京外語大学外国語学部に入學し89年に卒業。その後、東京学芸大学大学院教育学研究科へ入學し、91年に卒業しております。

私たちが寄付しています財団の基金から2570地区の代表として1996年イギリスのレディング大学大学院言語学科修士課程へ入學しまして、1年後に卒業して帰国しております。

職歴としては、91年に武蔵高等学校・中学校の教諭、さらに東京学芸大学教育学部助教授。この助教授をしているときに私は会いまして、「及川君、これ受かったら助教授を辞めて行くの?」と聞きましたら「そうです」とのこと。「辞めて行っちゃったら後が大丈夫なの」と言う。「いや。何とかありますよ」ということで仕事を辞めてイギリスへ留学したわけです。

帰ってきました、山梨理科大学医学部の助教授、そして2002年4月より現在の埼玉大学教育学部助教授という経歴の持ち主です。

財団の受験生は競争が非常に厳しくて、たくさんの受験生が当地区でも居るわけですが、確か及川君のときは10人位だったと思っております、その厳しい試(次頁へつづく)



験を通過した優秀な青年です。私たちの財団に対する寄付がこういった形で生かされていることを知って頂ければと思います。

また、及川君は英和辞典フェイバリット、ウェスター、プチパル英和辞典などの詳しい文法を分担執筆いたしておりまして、NHKラジオ基礎英語、基礎英語3の問題集は及川君自身が作ってNHKに提供しているという事でございます。

今住んでいるのは東京の板橋ですが、実家が行田の太田でございます。行田に帰ってくる機会も多いかと思っておりますので、是非私たちの財団への寄付がこういった青年を育てているのだなと感じながら話を聞いて頂けたら有り難いと思います。

以上でご紹介を終わります。

## 及川賢 助教授



改めまして皆さんこんにちは。高いところから失礼します。ただいま小山様からご紹介のありましたとおり、96年から97年にかけて財団の奨学生という事でイギリスのレディングに留学させて頂きました。その時、こちらの行田ロータリークラブからご推薦を頂きました。本当に有難うございました。お蔭様をもちまして、このような立場で仕事をさせて頂いております。行田ロータリークラブの皆さんあっての今日の私だと思っております。高い席からでは有りますが、改めて御礼申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

お手元のハンドアウトに添ってお話をさせて頂きますが、その前に私が留学したときの様子を簡単にお話させて頂きます。

推薦を頂くためにはじめて行田ロータリークラブにお邪魔したのが、95年の2月か3月だったと思います。その頃は当時のあさひ銀行の3階か4階だったかで例会が行われていたと思います。当時の会長は橋本様。途中で代が変わりまして永島様になったときであったと記憶しております。また、小山様には私の担当のロータリアンという事で、大変お世話になりました。

皆さんの中には初めての方もいらっしゃると思いますし、10年前にはそんなのがいたなと覚えている方もいらっしゃるかもしれません。10年で体重も10Kg位太っておりますので、それぐらい差し引いて頂ければ思い出して頂けるかもしれません。

95年にご推薦を頂きまして、3月、4月くらいが締め切りで、5月の連休くらいに試験がございまし

て、北坂戸のオルモで筆記と面接の試験がございまして、そちらを何とか通過しまして、実際に日本をたったのはそれからさらに1年後2、3ヶ月たった96年8月ということになります。

その間の1年間には勉強会が年に4、5回ございまして、オルモのほうへ出かけていきまして、ロータリーについて精神でありますとか歴史でありますとかを勉強させて頂きました。

イギリスでは、レディングという町に滞在しました。この町はロンドンから電車で30分くらいのところ。ロンドンに通勤している人がたくさん住んでいるところです。そちらのレディングマティンズというクラブでお世話になりました。

マティンズというのは朝という意味でございます。エディングマティンズの例会は水曜日の朝7時30分から朝食を食べながら開かれますが、私も何度かお邪魔させて頂きました。卓話もさせて頂き、地区内で3回か4回くらいスピーチをさせて頂く機会もありました。

普段は、先ほどご紹介の通りレディング大学の修士課程で、応用言語学というちょっと名前は難しいんですが、要は言語教育でございます。日本でいえば英語教育について学びました。

私は今でも専門が英語教育ということで、勤務先の埼玉大学では将来英語の先生になりたいという学生さんたちを指導しております。

その95年・96年というのは、日本ではちょっと覚えていないのですが、総理大臣は村山内閣、あるいは橋本内閣ぐらいだったと思います。イギリスでは大変大きな変化があった年でして、97年の5月から7月までに2つ大きなことがありまして、一つは香港が中国へと返還されました。それからもう一つが、総選挙で労働党が圧勝し、サッチャー、メイジャーと18年間続いた保守党から、ブレア労働党政権へと交替しました。今回の自民党の圧勝とよく似ておりまして、地滑りのような表現がされますが、英語ではLand Slideと言うんですが、テレビでLand Slide、Land Slideと言う言葉がかなり頻繁に出てきたのを覚えています。

日本とイギリスでは、選挙のやり方は細かい点で違いがあるとは思いますが、面白い点がいくつかあります。一つは曜日が、日本は日曜日ですが、あちらは平日に選挙をやります。そのときは確か木曜日でした。「木曜日で大丈夫なの？」とロータリーの方にお聞きしたんですが、会社の方では早めに返さなければならないことになっているそうです。投票所は小学校と言うことで日本と同じです。「日本は日曜日なんだ」と言ったら、「それはいいね。小学校も休みにしなくてもすむしいね」とのことでした。

投票率は地区ごとに違いますが、70から80%位です。木曜日だから低くなるとか、日曜日だから高くなるとかは関係ないようです。

選挙の開票結果の発表方法ですが、日本の場合は速報などで知ることが多いと思いますが、イギリスでは広い会場に選挙管理委員の方がいて候補者が全員舞台に並ぶんですね。そこで「結果を発表します。誰々何票、誰々何票」とやるわけです。あそこも小選挙区制ですので一人しか当選しないのですが、当

(次頁へつづく)



選した人が「やったー」と言って、他の人が「残念」という気の毒と言えは気の毒な風景があちこちで繰り広げられました。特にあの時は、保守党で絶対と言われていた人がかなり落ちていまして、テレビでもそういう人を集中的に写すものですから、見ていて気の毒になりました。今回たまたま総選挙の直後と言うことで、懐かしく思い出したことを申し上げました。

学生生活は寮に住んでおりまして、財団から頂いたお金が200万円ちょっと位でしたが、学費と寮費はそれでまかなうことができました。

奨学金は理系の場合は学費が高いのもう少し高いようですし、ドイツの場合は学費が無料ですので奨学金がもっと安いとかのようでした。いずれにしろ、多大な額を頂きましたおかげで今日があるということで、大変感謝しております。何らかの形で、お役に立てればなと考えています。

3年半前に埼玉大の方に籍を移しまして、県内の特に英語の先生方と接する機会が多いわけですが、英語教育を通じて、埼玉県・行田市へお手伝いできればなと考えております。そうした機会がございましたら、いつでもお声掛けください。



さて、本日お話をさせていただくのは、小学校における英語教育ということについてです。皆様の手元にありますハンドアウトに従ってお話させていただきます。まず簡単に、○×クイズなどをさせていただきます。

小学校の英語教育について間違った情報が伝わっていることが多いなと感じることがあります。そこで、こんなところから始めてみようと思いました。一緒にお考えいただければと思います。

まず一番が、日本の公立小学校において英語は正式な教科である。さあこれは○か？×か？ いかがでしょうか？ はい。これは×です。正式な教科ではありません。どういう位置づけかと申しますと、総合の時間というのがありまして、その中の国際的理解の一活動として、やってもいいよというだけです。ですから、英語は必ずやらなければいけないものではありません。実際、平成16年に英語の活動をやりましたか？との問いに、9割以上の小学校がやりましたと答えましたが、中身がまちまちでして、ALT・AETと呼ばれる英語の先生がいらっしゃるんですが、その方が訪問してきてちょっとしたクイズをやったり、或いはクリスマスのときにクリスマスパーティーをやったというのでも「やった」に含まれていますので、かなり差が有ります。中には週に1回必ずやっているという学校もあります。

埼玉県は実は95%ですが、中身はかなりまちまちだと思います。いずれにしても正式な教科ではないということです。これを小学校で英語をやっている。或いは、正式な教科だと勘違いしている人が多かった。これはマスコミの影響で、ちょっとあおったところがありまして、平成14年からこれが始まったわけですが「今度英語が入りますよ。大丈夫ですか？」と英語の教材を売る一つの手段としても利用されました。

こうしたことから、英語教育が学校で一斉に始まるという誤解があったわけです。実際には今お話したとおり正式な教科ではありません。従いまして、2問目の小学校用の英語検定教科書は一冊も出ていない。これは出ておりません。

教科であれば必ず検定教科書がなければなりません。総合という教科書はありません。それ以外はすべてあるわけです。ですから、英語は今の段階では教科ではありませんので検定教科書は有りません。ただ、副教材という形ではたくさん、本当にたくさん出ています。書店に行きますと英語活動のためのということで、本が本当にたくさん並んでいます。小学校は中学校より生徒が多いですから、マーケットとしては大きいわけでたくさん出ております。

3番目、私立中学校で英語を入試の一つにしているところがある。これも時間がないので先に申し上げますと、これはあります。ただし選択科目になっているようです。

私が知っているところでは、東京の帝京中学校で英語での受験が可能ですが、国語との選択になっています。恐らくこれは、帰国子女向けだと思います。

この入試というのも今後の問題点で、もし英語が教科になった場合、私立中学校が入試に英語を入れてくるということが懸念されています。というのも「小学校までもが受験英語をやらなければいけないのか？」ということです。かといって、私立中学校に対して文部科学省がやめろとはいえないんですね。ご協力お願いしますくらいは言えますが、それ以上に強制することはできません。もし、私立中学の受験に英語が入った場合、今言われている受験英語の弊害が、小学校にまで下がってきてしまう。今後見守っていかなければ行かない点だと思います。

4番は、小学校で教えるのに中学校の免許がいるかどうか？ ですが、これは必要ありません。これはある意味問題になっておりまして、今後もし誰かが教えなければならないことになった場合に、担任の先生が教えるというようになった場合には専門の方ではないわけですね。多くの方は、英語の教え方については習ってきていないわけです。国語や算数は習っているわけですが、英語に関してはまったくやってきていない。そういう人が英語を教えなければならない。ほとんどの小学校の先生が、やらざるを得なくなってくる。

そうなるとも子どもが感じるのは、今大学で教えているわけですが、大学の方が高校や中学校より教え方が優れているわけでは決してありません。むしろ学年が下がるほど、教えるのは難しくなります。小学生に教えるのは、中学生、高校生に教えるよりもっと難しいことだと思います。そういうような意識が揚がってくるといういなと感じています。

(次頁へつづく)



5番目の、韓国では小学校1年生から英語が教科として教えている。これは○か？×か？ 正確には×です。韓国では、3年生から教科として教えています。

それではなぜ、小学校で英語ということが言われるようになったのかということ私なりに4つ考えてみました。まず第一に、英語が必要になってきているのだからと感じます。特に、英語の必要性は二極化していると思います。

英語が必要な人とまったく必要でない人がはっきり分かれてきていて、必要でない人は本当に、まったく英語を使わずに一生を送ることが十分できるわけです。方や必要な人は、日産のように社内会議がすべて英語になったということもございます。ついこの前まで英語に関係ない生活をしてきた人たちが、急に英語に迫られる。しかも毎日使わなければならないということで、これまで学校教育で対応していただいただけでは当然足らなくなってくるわけです。ですから、本当に必要な方とそうで無い方の差が恐らく大きくなってきているのだと思います。

今の日産の例に見ますように、小学校から英語という声は一つは財界からの声として起こってきた事が大きいと思います。

「日本人は英語ができません。これは何とかしなければ」ということです。「小学校から始めれば、良いのではないか」という発想になったものだと思います。ですから、一つ目は英語の必要性自体が高まっているということが、実際問題としてあるのではないかなと思います。ただしそれは二極化であって、本当に必要な人と必要でない人がかなり分かれてきているのではないかなと感じます。

二つ目、今も出ました日本人の英語力の低さということですね。TOFELという国際的な英語テストのスコアを揚げました。見て頂けばわかるように、日本が一番低い点になっております。アジアにおいても回によって異なりますが、下から1か2です。これが良く日本人の英語力の低さの資料として出されるものです。

ただこれにも意見がありまして、いやいやそうは言うけれども、特に中国とは受ける層がかなり違いがあるようです。日本の場合、猫も杓子もといましようか、たくさんの学生が受けているわけですが、中国の場合は受験料が高いこともあって、エリートだけが受けている。もともと受ける学生がかなりできる学生だということ。中国に関しては、日本よりできるのは当然なんだろうなと思います。

ただし韓国に関しましては、日本と同じような状況になっていますので、韓国と日本を比べてみるのは意味があるのかなと思います。ただこれは学生の場合でして、ビジネスマンになると実は逆転して日本人の方が上になります。ですから潜在的な力は日本も決して低くは無い。必要に迫られて英語を勉強すれば必ずしも負けてはいないということが恐らくあるのではないのでしょうか。

ただこういったこと、日本人は英語力が低いということが指摘されるわけです。じゃあ早くやれば、良いのではないかと議論されるわけです。

三番目、海外の事情について簡単にまとめた表がございますが、こちらをご覧ください。これも先ほど申しましたが、アジアにおける英語教育の開始年

齢とどれ位やっているかをまとめたものです。

日本も小3というふうになってはいますが、必ずやらなければならないというものではありません。それに対して韓国の小3というのは、これは全員です。教科として必修となっております。97年の3月からそのように始めた記憶しています。タイでもかなり力を入れているのがこの数字でもわかります。

タイはある意味日本と似たところがありまして、アジアで植民地になっていないのは日本とタイだけです。植民地になったがために英語ができるようになった例があるわけです。そういった意味で日本に近いわけです。

かなり英語教育に力を入れているということで、今後注目すべきかなと思います。

四番目、英語は早ければ良いという幻想と書いてしまいましたが、子供の方が言葉を覚えるのが早いというのはあると思います。うちの子は4歳ですが、確かにあつという間に身につけています。とんでもない言葉も保育園で学べます。

ただそれが外国語として日本で英語を習っている場合に、本当に適用できるのかという点ではちょっと怪しいのではないかなと思います。

そこに「小学校で始めるメリットはまだ証明されていない」と書きました。いろいろなデータが出てきているのですが、たとえば小学校から英語を始めたグループと中学から始めたグループで、どちらが英語の発音が良いかを比べたところほとんど差が無いというデータもございます。

また臨界期というものがあります。これはある一定の年齢を過ぎると言葉を学ぶのが難しくなる時期をいうのですが、これも存在するとは言われますがあまりはっきりしたことは判っておりません。

英語教育が小学校に入ってくるまでの流れについて3ページにまとめてみましたが、全体的に教科にしようという流れがもしかしたら進んでいるのかなと感じます。しかし、週5日制になってから教科はいっぱいいっぱいなんですね。英語を入れるためには何かを削らなければならないわけです。たとえば社会を削れば社会の側から文句が出るでしょうし、そう簡単にいけるものでもないようです。

学習指導要領が10年ごとに改訂されていますが、前回は平成12年位でしたので次は平成20年以後ですが、今のところまだわかりません。

それから英語の位置づけは、先ほど申し上げたようにまだ教科ではないということです。仮に教科になったとしても週1回程度だと思います。週1時間  
(次頁へつづく)



程度では、悪く言えばお遊びの延長にしかならないと思います。英語を身につけるような量ではとてもありません。

学校は35週間です。35週間で週1回というと35回、実際は行事でつぶれたりしますので30回くらいです。年間で30というのはかなり少ない時間でして、小学校の教育に取り入れられても多くを期待できないのではないかなというのが多くの見方です。

最後に英語が教科化した場合の利点と問題点についてですが、よく発音が良くなるということが言われます。先ほどそうでないデータもありましたが、全般的に見れば発音だけには良い効果があると私は見ています。特に文法の力、文法というところと悪者扱いされますが、言葉の習得には大変必要なものだと思いますが、文法の力についてはむしろ年齢が上の方が習得が早いというデータもございますし、直感的にもそうです。恐らく発音に関しては、小さい方が良いといえるのではないかと思います。

それから、聞く話すといった音声面の力もアップすると思います。英語といった言葉によりも異文化に対する理解が深まるのではないかなということもいえます。こちらの方がある意味期待できるのかなという気がしています。

私が子供の頃に外国人の方と接することはなかったわけですが、小学校の頃からそういう人たちに触れているということは、ある意味、異文化に対する壁が低くなってきて、それだけでも効果があるのかなと思います。

それから問題点ということでは、国語力の低下ということですね。しかし、週1回程度でしたら国語力に問題になるほどの英語力がそんなにつくとは思えません。私はこの件はあまり心配していませんが、しかし英語をやる前に国語の時間をしっかりしなければということ、正しいことだと思います。特に読書の力ということですね。

行田ロータリークラブさんでも読書の推進をされているとのことですが、まず読む力をしっかりつけることが大事なのではないかなと思います。

それから、先ほどの中学入試が入ってきた場合には、かなり大きな弊害になると思います。

次に、力量ある教師の不足。先ほども申し上げましたが、教員が育たないことにはいくらやっても効果は難しいのではないかなと思います。

小学校の先生の中には、英語が苦手だから小学校の先生になったという人もいるくらいですから、力のある人を育てていくという点では、10年20年くらい先のことを考えながら進めないといけないのではないかなという気がしています。

最後にこれから何が必要かということですが、教育成果の確認ということ、どういうことをしたらどういう結果になるかをもう少ししっかり把握する必要があります。

それから、教員の確保です。それから話し合い。地域と教育委員会を含めた話し合い。それから、小学校だけの問題でなく小中高大まで続く教育全般での連携を、もっとしっかりして行かなければならないのではないかなと考えています。

それから、国語力ですね。早く始めることも良いんですが、英語を読む力、英語を簡単なものからどんどんどんどんたくさん読む、英語の多読が必要な

のだと考えています。英語の多読が英語教育界ではちょっとしたブームになっていまして、たくさん本を読もうというプログラムが各地で行われています。私も賛成でして、県内の小中学校の先生にプログラムの作り方とかお手伝いをさせて頂いております。

読む力をつけていくことが英語の指導においても必要なのではないかなと思います。

最後に参考文献を挙げておきましたので、お忙しいでしょうが目を通していただければ問題点などがさらにわかってくると思います。

本日は、賛成反対ということではなく、現状としてはこういうことがあるということでご紹介させて頂きました。小学校に限らず英語教育で行田市あるいは埼玉県でお手伝いさせて頂ければと思っております。今日はお聴きいただきまして、大変有難うございました。

## ニコニコ報告

- ☆**内山会長**…バーベキュー例会、白河提灯祭例会と多数の皆さんの参加に感謝します。  
及川先生本日は卓話ありがとうございます。
- ☆**山本(憲)幹事**…めっきり秋らしくなりました。  
お元気で過ごしてください。
- ☆**渡辺会員**…及川様、本日は有り難うございます。  
白河クラブの皆様お世話になりました。
- ☆**小山会員**…1996年の財団留学生、及川賢君、卓話よろしくお願ひします。
- ☆**小林会員**…白河提灯祭で白河クラブの皆様に変お世話になりました。すばらしい祭に感動しました。  
交換学生、及川さん卓話ありがとうございます。
- ☆**武笠会員**…及川様、卓話ご苦労様です。
- ☆**佐藤会員**…及川様、卓話ご苦労様です。
- ☆**小川会員**…白河クラブ訪問では家内が会員夫人にお手数、ご迷惑をおかけしました。
- ☆**大谷会員**…及川さん卓話ありがとうございます。
- ☆**小池(利)会員**…及川さん卓話ありがとうございます。
- ☆**古沢(勇)会員**…及川さん卓話ありがとうございます。
- ☆**鈴木(康)会員**…及川さん卓話ありがとうございます。
- ☆**清水(治)会員**…及川さん卓話ありがとうございます。
- ☆**田山会員**…及川さん卓話ありがとうございます。
- ☆**小菅会員**…及川さん卓話ありがとうございます。
- ☆**小島会員**…阿武隈や提灯御渡河行列、楽しませていただきました。
- ☆**小椋会員**…10月20日の日帰り旅行、多くの参加よろしくお願ひいたします。
- ☆**廣川会員**…及川先生、お忙しい中ありがとうございます。学生のその後、大変興味深く拝聴いたしました。

合計¥22000



# 委員会報告

音楽文化委員会 小椋剛委員長



皆さんこんにちは。職業奉仕委員会と音楽文化委員会からのお知らせです。

来る10月20日、企業訪問を兼ねた音楽鑑賞会を企画しました。今日皆さんのところにメールとFAXでご案内させて頂きましたが、企業訪問として東京証券取引所、音楽鑑賞として劇団四季の「オペラ座の怪人」を予定しています。集合が朝7時30分に産業文化センターの駐車場に集合して頂き、7時30分に出発の予定となっております。午前中約1時間、証券取引所を見学しまして、築地で昼ごはんを食べてその後「オペラ座の怪人」を1時半から見る予定となっております。

この「オペラ座の怪人」は大変人気の高く、当クラブの鈴木会員にかなり努力してとって頂きました。奥様方にも喜んで頂けるものと思いますので、奮って参加していただきたいと思っております。

尚、切符が40名分しか取れなかったものですから、いっぱいになり次第締め切らせて頂きますので、宜しくお願いします。

また会費ですが、一人1万円と少々高いですが、大変人気のあるミュージカルですのでこれを機会にご覧になったらよろしいと思っております。

会費の徴収ですが、10月7日が申込締切となっておりますので、10月6日の例会で集めさせて頂きたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

以上です。

## 白河訪問の報告

渡辺栄一会員

先ほど来、会長幹事からご報告がございましたので、特に私からご報告申し上げることは無いはずですが、2、3、皆様方にご報告しておいた方が宜しいと感じた件がございましたので、ご報告させて頂きます。

一つは、白河のちょうちん祭りに牛だの皆さんが大変大勢お見えになったのが大変うれしかったのですが、同時に白河の皆さんには大変お骨折りを頂きました。

気配り、目配り、心配りで大変な犠牲を払って頂いたという事でございます。そういった方々でござ

いますので、今度8年目を迎えました両クラブの交流が今回の自動更新によりまして、ますます深まり続くものと思います。

それから、先ほど厳粛ということがございましたが、お祭りに出場なさった若い方々はすべて禁酒でございます。一般的にお祭りにお酒は付き物ではありますが、あの方々は一切ノンアルコールで行事に参加しているわけです。と同時に、大変神事が先行致しまして一切が神様のお告げと申しますか、言われるとおりのことと申しまして、大変厳しい戒律があるわけですが、その結果350年もあのお祭りが当時と変わらぬ形態で今日まで続いているわけです。

時代時代に沿ったやり方をなどという話もありませんけれども、ちょうちん祭りは350年間ほとんど変わっていないで伝統を守り続けているということと申します。

ロータリーも100周年を迎えたわけですが、最近はややもしますと、時代に沿ったやり方も申しませんが、R1の方では規制緩和いたしまして、ロータリーかどうか分からないような状態になりつつあると思うわけです。今後、再検討しなければならないのではないかと感じる次第でございます。そんなこともございまして、お手元の月信の3ページに、クラブ奉仕のセミナーがございました報告が載っています。お時間がございましたらご一読いただきまして、大切なクラブ奉仕を皆さんとともに奉仕の精神で行っていただきまして、ロータリーがさらに今後発展し長く続くことを念願し、報告とさせていただきます。

有難うございました



## 出席報告

正会員数 72名 ● 出席率 44.40%  
本日の出席者 32名 ●